





本書の使い方

■ 本書の構成

本書の第1章「実験レポート作成クイックガイド」では、実験レポートの構成の基礎知識や作業手順などを、できるだけ具体的に（大学1年生の皆さんが受講する実験科目にできるだけフィットするように）説明しています。

続く第2章「実験レポート作成ワークブック」では、実際に実験レポートを書いていく（おすすめの）順番にしたがって、レポートの  形式、 書くべき内容、 気をつける点・省く内容、 ヒントとコツを紹介しています。特に、実験レポートに慣れていない皆さんがやりがちな間違いを含んだ「ダメ例」を示し、改善していくプロセスで正しい実験レポートの書き方を習得する構成になっています。また、補助となる説明を簡単にまとめたライティングテクニックを関連する場所にちりばめています。

実験レポート以外のアカデミック・ライティングの参考にももらえる付録もつけました。

■ これから実験科目を受講する学生さんへ

はじめて実験レポートを書こうとしている方は、まず第1章で実験レポートの基礎知識を獲得して、第2章の説明の流れに沿ってレポート作成作業を試みることをおすすめします。

■ もう実験を終えてレポートを前に困っている学生さんへ

実験はすでに終わっているという方は、第1章の2、3はとばしましょう。実験レポート作成のヒントになるので、次の実験までに読んでおくことをおすすめします。第1章の1、4で実験レポートの構成と書くだんどりを確認したら、レポートが書きやすくなるはずですよ。第2章に沿って、すぐに執筆をはじめましょう。

■ 書き終わったけどきちんと書けているか不安な学生さんへ

一通り実験レポートが書けている方は、第1章1の構成になっていることが確認できたら、第2章1～9の末尾にあるチェックリストを確認し、不備があったところを重点的に振り返るとよいでしょう。

■ レポートが再提出になったけど何がダメかわからない 学生さんへ

提出したレポートに対し再提出の指示があり、しかも教員やTAからのフィードバックがなく、自分のレポートの何がダメがよくわからないという方は、第2章の「ダメ例」から見ていくのも1つの手です。学生さんがやりがちな間違いをたくさん掲載しているので参考に見てみてください。自分のレポートと「ダメ例」を照らし合わせ、ダメと評価された箇所を探し出し、修正しましょう。

■ 何度か実験レポートを出した学生さんへ

実験レポートに少し慣れてきたという方は、作成作業をしていてうまく進められないとき、迷ったときなどに、関連する第2章の内容を参考にする辞書的な使い方をしてみてください。

■ 実験レポート以外の科目のレポートで困っている学生さんへ

他の科目のレポートもアカデミック・ライティングの基本を守って作成すれば基本的には大丈夫です。付録1～3に実験レポート以外のレポートを作成するときの参考情報がありますので、活用してください。

■ 探究学習に取り組む高校生の皆さんへ

探究学習の成果として実験レポートを書こうとしている高校生の皆さんは、おそらくきちんとした実験レポートとはどういうものか、アカデミック・ライティングとはどういう文章を書く作業なのか、わからず困っているでしょう。まず第1章で実験レポートとはどういうものかの基礎知識を獲得して、第2章の説明の流れに沿ってレポート作成作業をしてください。付録も参考にしてください。文献の検索をすることや、専門的な文献を読むことなど、大学生でないと難しいこともありますが、指導の先生方のアドバイスを受けるなどして、できる範囲でチャレンジしましょう。

■ 卒業論文に取り組もうとしている学生さんへ

本書の内容は、大学1年生対象の実験科目のレポートを作成するレベルを想定しています。ですが、第1章で紹介した科学系文章の基本構成やおすすめの執筆手順、第2章で紹介した具体的な形式・内容や気をつける点は、学部卒業論文を作成する場合にも応用できるはずです。作成する文章の規模は大きくなっても、ぜひ本書の内容を卒業論文の作成に活用してください。